

第74回 全国産業安全衛生大会 安全管理活動分科会（第一会場）
パネルディスカッション「海外進出時における安全衛生活動の進め方」に関する
アンケート結果

中央労働災害防止協会
技術支援部国際センター

1. 日時

平成27年10月30日（金）13:00 - 14:30

2. 場所

名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）

3. パネラー

トヨタ紡織株式会社 安全衛生環境部 安全衛生推進室 室長 奥 孝一 様

日本コカ・コーラ株式会社 技術・サプライチェーン本部

品質・労働安全衛生・環境ガバナンス

労働安全衛生・環境サステナビリティ マネージャー 近藤 葵 様

一般社団法人日本化学工業協会 環境安全部兼レスポンシブルケア推進部

部長 山本 卓 様

4. アンケート回答数

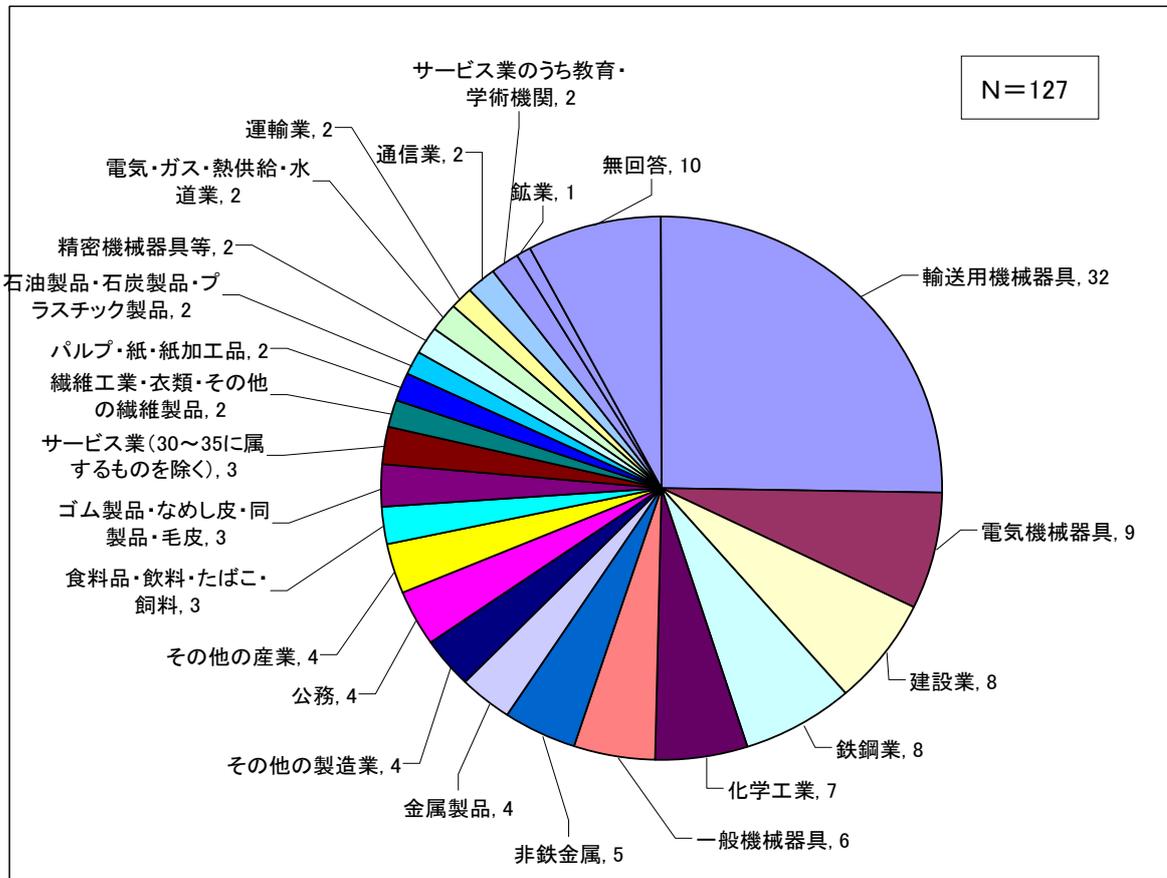
127

注)1 無記名記入方式（業種のみ）、会場参加者に依頼（任意）し、会場で回収しました。

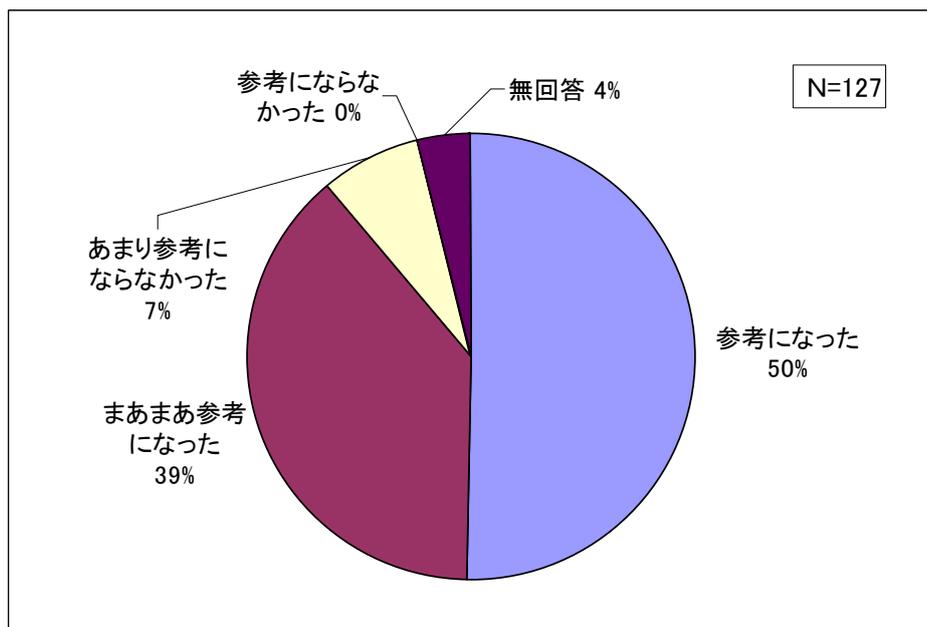
注)2 本アンケートは本パネルディスカッションを対象に行いました。

注)3 質問2および質問4の回答内容を記述しました。

アンケートをご回答いただいた方の業種



質問1 本パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。



質問2 各パネリストの説明やその他のディスカッションで、ご興味を持った点がありましたら、お聞かせください。(回答数 99)

- パネルディスカッションの命題が具体的で回答が参考になった。
- デキパキとした説明でわかりやすい(聞き取りやすい)と特に感じました。我々大手では無い企業に取っては海外での取り組みが同じレベルの活動と言う観点で聞かせていただき、現在行っている活動と相違ない事から参考にさせていただいた。
- 成功事例の紹介が参考になった。
- 現地に行った人が何を感じたか知れて参考になった。実際の経験に基づいた説明。
- 海外でのご体験を基にした改善活動や文化の違い等のお話が大変参考になりました。有難うございました。
- 3つの方向よりの発表でよく理解が出来た。当社の活動が間違っていないことが確認できた。
- 国によって危険への感受性に違いがあることについて、想像はつきましたが、実際に体験された方から聞くことで、改めて考えさせられました。
- 日本と海外とのアプローチの方法の違い、国々の文化の違いを確認する様に強く感じた。
- 日化協 サステナビリティについて 海外へ展開する場合の有効であった活動。
- 欧米と日本方式の発想の違い、危険の感受性のちがい。現地の人々に意識向上させる為、体感する事が大切。
- 本質安全化 全世界標準、ISOにも類似した思想と思われる。
- 共通の安全基準があることはキーポイントと思いい中災防さんにぜひ取り組んでほしいです。
- 日本の安全衛生活動が世界標準になっている。日本のKYTが優れていること。日本との差に興味をもった。
- 地域統括会社による安全委員会の体制。
- 日本流安全衛生活動をしっかり根付かせる。但し、理解を得ることが大前提。
- 誰でも短時間で作成可能なビジュアルマニュアルを自職場でも展開して行きたい。
- **コカコーラ**の社内監査方法、各拠点に抜き打ちで5日間の現場中心の監査をされるやり方は参考になりました。現場監査がメインである事に興味を持った。
- 本社が米国の日本コカコーラ社は日本の考え方・対応策とかなり異なっており参考になった。
- 外資系であるコカ・コーラの日本法人の活動が、欧米で評価を受けたこと。日本のKYTが海外で評価されたという点。
- 「スマイルと帰ろう！」キャンペーンをグローバル全体で取組まれていること(Coca Cola様)。ロゴマークの設定やアプリケーションスマホクイズは斬新なアイデア。
- コカコーラのゲームアプリで個人の安全意識を高める活動が自社でも取り入れられるとよい。ただ、そのゲームをする時間の確保の仕方が課題。安全推進担当部署がKYTなど対策を色々考えているのはすばらしいが、自社の現場では仕事を止めて取り組まなければ

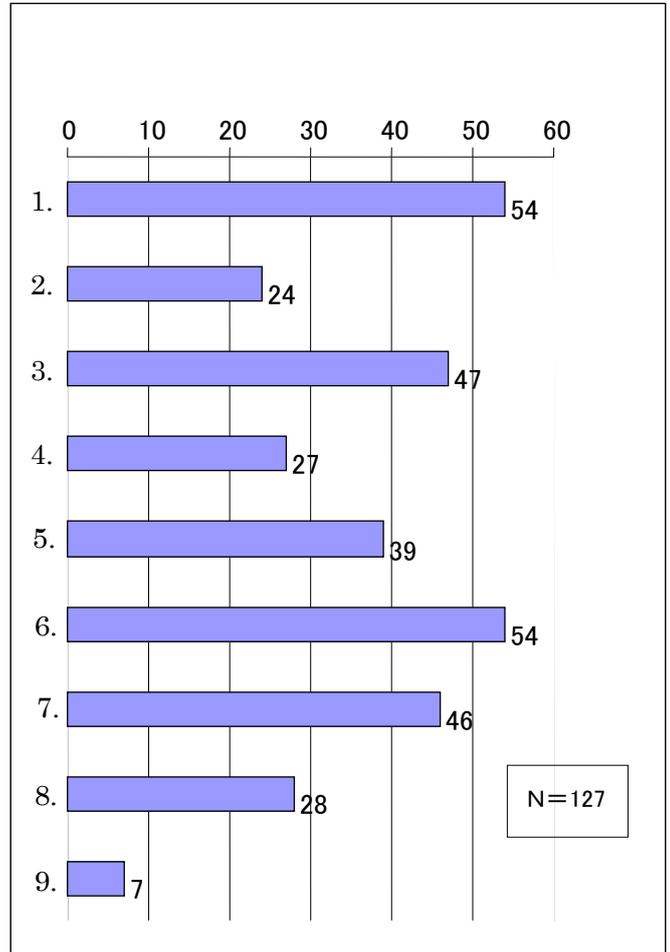
ならないが、時間確保が現場まかせになっており、現場判断では生産性が落ちる為なかなかラインを止められない。トップがラインを止め、安全活動に取り組む時間を与える采配が必要だと思う。

- コカコーラの欧米基準の安全に関する考え方、「危険感受性がない人間」にもケガをさせない。
- アセアン地域での安全衛生委員会を2日/月実施されており、相互乗入れよる良いとこどりされている点(トヨタ紡織様)。
- また、感受性を高める為、安全道場・安全体感道場を導入しているトヨタ紡織に興味を持った。また、「ご安全に!!」という挨拶を広めたいと思った。
- 海外でのKY、5S等の動向。
- ASEANの文化、考え方が役立ちました。引き止め方も役立ちました。
- 転職に対する対応意見。
- 退職者が少ないこと(フィリピンの場合)。
- ほめることで教育をしていくというのが気になりました。親しみやすいアイコン、安全グッズは安全を身近に感じる一歩になると思った。
- 人的な要因で発生する災害を防ぐ策=教育(KYT)であること(海外でも通用する)。
- 安全感知力のアップ、KYTの浸透、中小企業に向けた体感道場の設置。
- トヨタの話は大企業すぎる。
- TBPCの家族のような組織運営、Coca-Colaのガバナンス管理。
- トヨタ紡織の安全道場。
- 現地従業員のモチベーション確保、UP。海外従業員の性格の違い どの様に安全活動していくか、体感型トレーニング、パネルの表示。ボトムUP活動KYT重要性はあると思う。
- 海外の苦労した点等非常に役に立つ内容であった。
- 豊田(トヨタ紡織)さんの紹介にあった生々しい事故写真 以前日本でも高速道路や警察署によくあった 雑誌ではとりあげられるが日本の現場でも「復活」させるべきでは。
- 日本独特とも言える安全管理の方法やアイデア、そして具体的に社会+各企業に浸透させていくための工夫がASEAN、フィリピン、そして欧米でも十分に通じるコンセプトであること。個人の意識を高めるには組織的後押しする取り組みが重要であり、日本はその点で極めて優れた事例と経験を持ち今後更にグローバル的にも注目されると確信する。
- 現地の文化を尊重すると同時に、本社からの明確な安全規準を浸透させることが重要だということがわかった。実際に取り組んでいる方々のお話をきけて良かった。
- 各国の事情、文化、風土、法律に合わせた安全管理のアレンジが必要(日本の基本を各国版へ転換)。
- 文化の違いはあっても、ゼロ災を目指す気持ちはあること。しかし行動はともなうか。
- 支援後のフォローをどの様に進めたのか? 現地で根付いているのか? 文化の違う中で日本流の進め方があっているのか? 自己満足で終わってないのか?
- 海外進出、豊田紡織フィリピン工場での安全活動(・トップの意見、・アセアン安全衛生活動)、海外での安全衛生普及の艱難さ(フィリピン)。

- 安全体感道場での体験と自職場での注意ポイントへの結び付きをどう担保するかが難しい、感受性・敢行性の理解が重要と思う。
- 日本と海外の文化・風土の違い、安全に関する考え方の違い、文化は違っても目的は同じ、感受性を高めるには、いかに安全文化を向上させるか。
- 米国では上司が安全確保することが基本的な考え方は聞いて良かった。最近ではK Y Tが評価されている（日本発）。
- 強いリーダーシップの下、信念を持って指導することが大切。
- 海外でも日本のボトムアップの活動が必要。特にK Y、N Hは輸出すべきでしょう。
- 安全意識が低い人とどの様に意識を変えていくかに関する説明。
- しかない、ポジティブにほめることが有効、信頼を得る（ひとつひとつ対応する）、安全クイズ（5000人参加）。
- 当社でもフィリピンへの新工場立ち上げを来年に控え、国民性のお話はとても勉強になりました。頭ではわかっているがなかなか実践できませんが、今回を良い機会として安全衛生活動に活かしていきたいです。

質問3 今後、中災防として取り組むことが必要なものは何でしょうか（複数回答）

1. 中災防 HP 等による海外関係情報の提供（日本語で、関係法令・事例・データ等）
2. 本パネルディスカッション等の情報交流会の開催（小規模のセミナー形式を含む）
3. 海外進出に当たっての企業担当者向けの日本国内での相談・コンサルタント
4. 日本国内での日本人スタッフ向けの派遣前研修や現地従業員の本邦受入れ研修への支援
5. 進出先工場等での安全指導・安全技術サービス（作業環境管理・作業管理・健康管理）
6. 進出先での現地従業員向けの研修（KYT・5S、その他安全管理、安全衛生指導者養成）
7. 進出先従業員研修又は本邦受入れ研修時に使用するテキスト・教材の作成等（英語等）
8. 進出先の関係機関（同業他社、政府・団体）との交流支援（交流会開催・左機関紹介等）
9. その他



9. その他

- ・安全道場などの体感型の施設設営に参考となる資料を体系的に紹介してほしい。
- ・現地語・日本語に対応した安全書類、安全教本が作成がむずかしいので対応してほしい。
- ・海外の当事者も含めたパネルディスカッション。
- ・グローバル安全管理事例を逆に日本への紹介及び具体的事例を定期的に配信していただきたい。
- ・進出先毎の事情（風土）に合致した国内での研修、相談（個別、地域）。
- ・保護具の規格の差異。
- ・文化摩擦などによる失敗事例の紹介。

質問4 その他、ご意見・ご感想がありましたらご自由にお書きください。(回答数 17)

- 現地に於ける具体的な取り組みが聞けるのは、大変参考になります。ありがとうございました。
- ほんまでっかTVをまねしてみたらいかがと思いました。
- (意識レベルのアップについて) 感受性、KYT, 体感教育等が有効であることがわかった。日本の教育・取り組みが世界の中でトップをいっている事が分かった。今日とても勉強になりました。
- もう少し活発に意見交換等やってほしい。正直、聞いている人数の少なさが証明している。
- 海外工場での安全衛生取り組み事例・研究発表を次回以降増やして欲しい。
- OSHMSを今後展開するに当たり、相談をしたいが、中災防へ直接させてもらいたいが、予算取れない場合はどうしたらよいか？
- ありがとうございました。
- 海外の成功事例をたくさん示してほしい。
- 国際会議場(30日)午後の発表少ない。他の分科会への渡りを少し考慮しては(国際会議場内も広い 移動4~5分必要)例:14:30終了 14:20開始途中からとなってしまう(途中退席が多いのもその事由かもしれない)。
- 非常に参考になる事例と適切なパネリストが招かれた有意義なディスカッションでした。ありがとうございます。
- 我社もマレーシアに工場がありますが、ヘルメットを着用していません。どうしたら着用させられるか悩んでいます。海外の文化と日本の良い所をうまくMixして検討し、解決したいと思います。
- 各国でのオペレーションによる安全管理は充実してきているので初進出の場合の切口でまとめ上げて欲しいとも思った。
- そもそも日本と海外は違う。日本ででも外から見るとx!! 当然日本も昔は同じ...!! 時間をどれだけ使っていけるのか!? トップダウン...、トップが、会社のトップ、職場のトップ、部のトップ、課、係、組、班のトップがどれだけ関心を持つかが必要!
- テーマに対してフィリピンや欧米等の一部の紹介にて終了しており総局的話で終始した印象。もう少しテーマを絞りパネルディスカッションをしたほうが良いと思います。
- 私はインドに4、5ヶ月出張した経験があるので「海外進出...」という今回のディスカッションテーマ内容は有意義であった。
- 海外工場担当者の日本国内での研修。
- 英語の教育資料が欲しい。(職長教育、安全、5S、etc.)